

4 華東理工大学での毛丹青との対談

要約（2009（平成21）年9月18日）

（事務所だより第14号・平成22年新年号5頁より）

- 1) 8月の上海旅行で会食中に決まったのが、9月19日の毛さんの講演会への出席と華東理工大学での『取景中国』をメインとした学生たちに対する毛さんと私の対談。中国人との意思決定は日本と違って早い。特に毛さんと私は早い。食事中に1つの方向性が決まれば、あとはトントン拍子。その結果、講演会への参加と対談の実施そして上海観光を目的とした、妻を含む4人のツアー旅行が実現した。



- 2) 9月18日午前10時。階段教室に集まった学生は100名弱。教室の前から埋まっていくのは、07年10月10日北京電影学院で特別講義をした時と同じ中国流。『取景中国』が配布された学生たちは興味津々の目を私たちに。出版の意図・狙いを語った後、毛さんの話題提供の第1は変わり者。つまり、08年3月の出会いで互いに変わり者だと認識したことが今日の出版に繋がったというテーマだ。第2はバスの美人車掌がネット上話題となり大勢の客が押しかけたため、車掌がダウンしたといういかにも中国的な話題。2人の対談は打合せなしのぶっつけ本番だからある意味きついが、逆にリアルで面白い。私が、日本では小学校の運動会の駆けっこで順位をつけるのは差別になるからみんな仲良くゴールインしていることを身振り手振りを交えて話すと、学生たちからは一斉にオーという声。そんな「舌好調」な展開で90分の対談はあっという間に終わり、後はサイン会。順番を待つ約50名の学生へのサインなど後にも先にもない初体験だ。



- 3) 翌日の毛さんの講演会も面白かったし、会食の楽しさはいつものとおり。さらに、地下鉄をフルに使った4人の上海観光は①上海博物館、②豫園、老街、③魯迅公園、魯迅記念館、故居と多倫路文化名人街、④上海環球金融中心など、足がパンパンになるまで歩き回った。東京タワーをはるかに超える474mから東方明珠電視塔を含む眼下の

超高層ビルを見下ろすのは初体験。その風景を夢中でカメラに。合間に2度も行った足ツボマッサージにも満足。公私ともに充実した日程に感謝！

